

未来を拓く八木山っ子の育成
～ コミュニティスクールと飯塚市の教育施策及び「書くこと」の実践を通して ～

1 はじめに

本校は、飯塚市の自然豊かな八木山の地、「貝原益軒」の「養生訓」の碑の近くに位置し、全校児童17名（地域の児童4名）のコミュニティスクールで、校区外の市内からも児童が通学している。

地域の協力も大きく特色ある教育活動が盛んである。しかし、児童減少で完全複式の授業であることや自己肯定感があまり高くない児童の増加などで、個に応じた指導の必要性を求められている。

そこで、コミュニティスクールとして特色ある教育活動を、縦割り活動で行いながらキャリア形成を図り、市の教育施策や書くことの実践を通して、授業改善を行うことで、周知・徹底しながら、教職員が協働体制で取り組み、八木山っ子の育成を目指したい。

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

学習指導要領の前文には、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な意図人と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とある。社会とのつながりが必要であり、＜社会に開かれた教育課程＞を意識した教育指導計画が各学校に委ねられる。

また、令和2年度から実施される学習指導要領では、次の3点を踏まえた教育活動を推進していく必要がある。

- ① 資質能力の3つの柱の育成
 - ・実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
 - ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
 - ・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性の涵養」
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ③ 学校のカリキュラムマネジメントの推進

以上のことから、コミュニティスクールを基盤に、未来を拓く八木山っ子を育成することは意義がある。

(2) 飯塚市がめざす教育から

「飯塚市学校教育プラン R2」で、飯塚市教育の基本理念として、飯塚市の未来を担い、世界へはばたく本物志向・未来志向の人づくりのために、「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」を育成している。

未来社会を切り拓く資質・能力を育成する小中一貫教育の創造のために、9か年の連続性のある「学び」「育ち」を追究した教育活動を基盤にしている。各成長段階（前期・中期・後期）毎に子どもたち一人一人のキャリア形成を図っている。各期における未来・地域・世界とつながる教育活動を通して、「本物」との出会いや「体験」を通じて、自己や社会の「未来」を前向きに創造する子どもたちを育てる「キャリア教育」を推進し、学校区で連携しながら実践をすすめている。

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の作り手となるために必要な3つの資質・能力（・実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能、・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等、・学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力）を育てながら、飯塚市教育の基本目標は、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」、
「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもの育成としている。

本校は、少人数のために、多人数の前で発表することに苦手意識を持っている児童も多い。また、自己肯定感があまり高くない傾向にある。そのため、児童のキャリア形成が強く求められている。

以上の飯塚市がめざす教育からも、コミュニティスクールである本校が、飯塚市の教育施策の実践を通して、未来を拓く八木山っ子を育成していくことは意義がある。

(3) 本校の特色ある教育活動から

本校は、自然豊かな八木山の地、「貝原益軒」の「養生訓」の碑の近くに位置し、全校児童17名（地域の児童4名）のコミュニティスクールで、校区外の市内からも児童が通学している。

また、学校運営協議会も年に3回開かれていて、地域の皆さまに支えられて、教育活動が成り立っている。また「緑の少年団」や「福岡県青少年赤十字」にも加入している。

この他にも、地域の方々に指導していただいている「八木山獅子舞」「田植えに始まるうるち米の稲作り」や、夏場所と秋場所に開く「相撲大会」、春と秋の「野鳥観察」、地域の方々と力を合わせる「住民運動会」など、特色ある教育活動が目白押しである。

さらに、本校は全児童17名しかいないために、掃除活動をはじめ、縦割り活動で様々な学習活動を行っている。

このように、地域の皆さまに支えられながら、特色ある教育活動を通して、未来を拓く八木山っ子を育成することは意味深い。

2 主題及び副主題の意味について

(1) 主題の意味

「未来を拓く八木山っ子の育成」とは、「社会に開かれた教育課程」を通して、個々のキャリア形成をめざす八木山っ子を育成し、コミュニティスクールである本校において、地域・家庭と連携・協働することで、子どものキャリア発達を促し、子どもを指導する教師の授業改善も推進しながら、教育課程を進めていくことを意味する。

「社会に開かれた教育課程」について「論点整理」P3～P4で、次のように記載されている。

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり自らの人生を切り拓（ひら）いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること

(2) 副主題の意味

コミュニティスクールと飯塚市の教育施策及び「書くこと」の実践を通してとは学校運営協議会を活用しながら、飯塚市の教育施策を実践していくことで、飯塚市の未来を担い、グローバル社会で活躍する八木山小っ子の育成することを意味する。

本校の特色ある教育活動をいかしながら、飯塚市の教育施策を実践していくと共に小規模で表現力に抵抗のある児童が多いため、「書くこと」（100秒作文等）の実践を通して、子どもたち一人一人のキャリア形成を図り、「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」を育成していくことを意味する。

コミュニティスクールと飯塚市の教育施策の実践を通してとは、学校運営協議会を活用しながら、飯塚市の教育施策を実践していくことで、飯塚市の未来を担い、グローバル社会で活躍する八木山小っ子の育成することを意味する。

9年間の連続した学びの中で、各成長段階（前期・中期・後期）において、子ども達一人一人のキャリア形成を図り、各期における未来・地域・世界とつながる教育活動を通して、「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」を育成していくことを意味する。

21世紀を生きる子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要な3つの資質・能力

- ① コミュニケーション能力 … 受け止める力、伝える力
- ② コラボレーション能力 … 協働して共に創り上げる力
- ③ イノベーション能力 … 新たなものを生み出そうとする力

3 研究の目標

「社会に開かれた教育課程」（八木山小学校の教育指導計画）を通して、個々のキャリア形成をめざす八木山っ子を育成するために、コミュニティスクールと飯塚市の教育施策の実践を通じた授業づくりについて究明する。

4 研究の仮説

「社会に開かれた教育課程」（八木山小学校の教育指導計画）を推進するために、学校運営協議会などコミュニティスクールとしての特色ある教育活動を通したり、飯塚市の教育施策（多層指導モデル MIM、徹底反復学習、知識構成型ジグソー法による協調学習、プログラミング学習、オンライン英会話など）を実践したりしていけば、21世紀を生きる子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要な3つの資質・能力（コミュニケーション能力）（コラボレーション能力）（イノベーション能力）が育まれ、個々のキャリア形成をめざす八木山っ子を育成することができるであろう。

【研究の手立て】

個々のキャリア形成をめざす八木山っ子を育成するために、次の3点を位置付けた授業づくりを仕組む。

<手立て1> **資質能力の3つの柱の育成に向けての授業づくり**

- ① 生きて働く「知識及び技能」の習得
(多層指導モデル MIM、徹底反復学習、オンライン英会話、速読など)
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
(知識構成型ジグソー法による協調学習、プログラミング学習、書く活動など)
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性の涵養」
(地域の方々との学び…「八木山獅子舞」「田植えに始まるうるち米の稲作り」や、夏場所と秋場所に開く「相撲大会」、春と秋の「野鳥観察」、地域の方々と力を合わせる「住民運動会」、及び「緑の少年団」や「福岡県青少年赤十字」など八木山小学校ならではの特色ある教育活動など)

<手立て2> **「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進**

- ① 校内研修（主題研修）に位置付けた授業改善
- ◎ 「ずらし」「わたり」のある授業の在り方
 - ・ 導入における「問い」づくり（主体的な学び）
 - ・ 展開段階の交流活動の活性化（対話的な学び）
 - ・ 終末段階の「価値づくり（振り返り）」（主体的な学び）
- ② 教室訪問での日常的な指導価値付け
 - ・ 学習問題、交流活動、振り返りなどへの評価
 - ・ ルーブリック評価の推進

<手立て3> **学校のカリキュラムマネジメントの推進**

- ① 八木山小学校の児童、学校、地域の実態把握をもとに教育課程の実施状況进行评估して改善を図っていく CAPD サイクルの推進
- ② 教育課程の実施に必要な人的または物的な体制づくりと学校内外の資源活用

5 検証方法

検証授業によって、個々のキャリア形成が育ちつつあるかを検証するために、ICTによる授業記録を撮るとともに、「キャリア・パスポート（ノート）」の活用や、ルーブリック評価を行い、毎時間の振り返る力と関連づけて、児童の育ちを把握する。

未来を拓く八木山っ子の育成

